

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あった家きゃっと)

事業所番号	0670700954		
法人名	有限会社キャットハンドサービス		
事業所名	あった家きゃっと		
所在地	山形県鶴岡市藤島字笹花48-12		
自己評価作成日	平成21年11月6日	開設年月日	平成18年4月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に、“ちょっとおしゃれな住宅にしては大きいな”と思える建物です。中はとても明るく、陽気な職員と、前向きに自分の意見をはっきり言える入居者が親子とも祖父母・孫とも思えるような関係でにぎやかに生活しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成21年12月4日	評価結果決定日	平成21年12月17日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ここで良いではなく、ここが良いと思えるホームづくり」への取り組みが続けられており、ホームが「特別な場所」ではなく、「暮らしの場である」ことへの地域の理解が深まっています。  
床暖房施工、ウイルス対策にも役立つ加湿器や光触媒加工が施された内壁など、利用者が健康で安全に暮らせるように、環境面への配慮も行われています。  
また、専門医による「嚥下評価(内視鏡使用による飲み込み状態の検査)」の結果やアドバイスに基づき、「ソファーに横になったまま、頭の位置や顔の角度を調節すること」により、むせずに食事がとれるようになるなど、医療と福祉の連携による「生活の質の向上」にも取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念を施設内の見やすい場所に掲示しています。朝礼で理念を確認しています。	地域密着型サービスの理念について職員間で話し合い、そこで出された考えや意見をまとめて、玄関、ホール、事務室に掲示している。また、朝礼の際にも確認しながら、実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	当事業所主催の行事へは積極的に参加いただいています。また、町内会行事への参加もおこなっています。地域の方々が落ち葉を掃いてくださったり、早朝に草取りを協力していただきます。	獅子舞い、子供神輿、各種ボランティア(敬老会での三味線・夏祭りでの歌・草取りなど)がホームを訪ね、互いに交流を深めている。また、町内会の特別会員にもなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長や地区の民生委員等を通じて、入所や困り事の相談等あれば声をかけてもらうように伝えていきます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーに介護相談員や町内会長、民生委員の方々より参加していただき、職員やご家族との交流をはかり、サービス向上に活かしています。	市担当者、自治会長、民生委員(2名)、介護相談員等の出席を得ながら、防災対策、外部評価、情報の公表、インフルエンザ、ターミナルケア、芋煮会などの内容で、2ヶ月ごとに開催されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターや市町村に困った事や悩んだ時に相談しています。スプリンクラー設置についても協力していただきました。	ホームと市担当者および地域包括センター間のコミュニケーションがよくとれており、制度面(介護報酬やスプリンクラー設置ほか)に関する相談はもとより、ホームから無断外出者が出た際の連絡・連携についての話もされている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	当事業所内研修を行っています。他のユニットとの交流により、入所者の閉じこもり状態を解消しながら、散歩など外出を行っています。日中は玄関に鍵をかけない取り組みを行っています。	ヒヤリハット委員会での検討内容も踏まえながら、「身体拘束をしないケア」について会議や研修の中で取り上げている。また、プライバシー保護の面にも十分配慮しながら、安全対策としてのセンサーやカメラを設置しており、行動パターンの把握、見守り支援、家族への説明等により、安易な拘束は行わず、玄関にも鍵をかけないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について、事業所内研修を行っています。入所者の対応については、お互いに声をかけあって、その都度対応について相談できるような環境作りを心がけています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見の相談を行い、成年後見を利用しています。また、職場内でも施設内研修を行っています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学していただき、方針や理念を説明しています。本人、家族が話し合う時間を持っていただいて、なおかつお試し利用も行っています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは対応等について細かな事でも、連絡をとって相談しながら行っています。面会時や電話連絡した時にはご家族に「何か困ったこと、心配ことはないですか」聞いて、その都度対応させて頂いております。	利用者ごとに担当職員を決めており、行事や日常の様子・表情がわかる写真を添えて家族に状況を伝え、意見や要望を把握するようにしている。また、ホームから入院した方の再入所など、個別の要望等にもできるだけ応えている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議での代表者や管理者と意見交換する場を設けています。年2回代表者と職員の個別面談を行っています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望や勤務交換等、その都度対応はしています。月一回の研修や外部評価へも参加し、意欲の向上につながっています。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内に講師を呼んでメンタルヘルス研修を行っています。外部研修等にも参加しています。月一回の会議の中で、初心者、中堅者毎に参加することもあります。	「身体拘束」「ヒヤリハット」「感染症」「メンタルヘルス」などの内部研修、「緩和ケア」「胃腸のケア」「リスクマネジメント」などの外部研修に参加している。また、外部研修の伝達研修も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に入会しています。地域のグループホームとも連携しています。研修に参加して、他グループホーム職員との交流をはかっています。	グループホーム連絡協議会や市内の連絡会に加盟しており、情報共有、意見交換、研修受講の機会等が設けられている。また、職員体制の理由から今年には参加できなかったが、交換実習に参加する機会も設けられている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行い、ニーズを把握し、その後事業所内でのカンファレンスを行い、援助方針を決めます。そして、ケア開始一週間後に再度話し合いを行います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受付相談時に家族から困り事や問題点等の聴き取りを行います。その後、担当者会議等でご家族の不安や悩み等を話していただき、対応を相談しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族それぞれの思いをセンター方式に記入しながら、今必要なことを確認して、支援内容を含めてサービス利用につなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にあった役割を探り、分担していただきながら、生活しやすいように職員が配慮しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事やイベントだけではなく、普段からご家族との連携を密に取り、ご本人への支援にご家族の協力を求めています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	閉鎖的な環境にならないよう、地域行事等に積極的に参加し、地域交流を図っています。また、当事業所の行事(夏祭り等)にも地域の方々から参加していただいています。友人、親族等との面会の機会を多く持っていただくようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、気の合う仲間作りへの支援を行うべく、役割や余暇を中心に人と多く係わる機会を設けています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関等の関係機関と連携し、情報交換して、ご家族が安心して住み替え等の手続きができるように支援しています。			

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で希望や意向を表出できるように会話しながら、ご本人の思いの把握に努めています。家族からの情報も含めて、その思いをケアプランの本人目標(センター方式のC-1-2)へ反映しています。	日常生活の中で利用者から「よく出てくる言葉」に注意や関心を向けるようにしている。また、「心身機能」「活動・参加」「環境」「個人因子」などの面について、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や趣味、嗜好の調査を行っています。面会時にご家族よりお話をお聞き、馴染みの暮らしが出来るように努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分らしく生活していただくために、自宅での生活を継続できるように、家事や趣味を行ってもらおうようにしています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、ご本人の思いや意向を把握し、家族の意見を取り入れて、課題分析し、ケアプランを作成しています。	本人、家族の意見や要望を取り入れながら、介護計画の作成と見直しが行われている。また、専門医による「嚥下評価」の結果や医療関係者のアドバイス、職員全員の気づきなどを反映させながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状態や体調等各個人ファイルに記録しています。日々の個人個人の変化は、申し送り簿で介護職員が把握できるようにしています。月一回の会議で職員同士で検討し、ケアプランに反映しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や近隣の方々の協力を得ながら、外出や外泊等を行っています。地域の行事等に積極的に参加していただいています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医や入所前からの主治医への受診しています。ご希望に沿って、ご家族と連携して通院介助を行っています。新たな病気の通院についてもご家族と相談し、協力しています。	かかりつけ医や協力医療機関への日常の通院支援、緊急時の受診付添や往診など、状況に合わせて家族とも連携を図りながら、必要な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師と情報を共有しながら、変化の早期発見につなげています。また、受診を早めに行い、重度化しないように支援しております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を受診し、紹介状を書いていただいて、入院へも早期に対応しています。入院の際は、管理者、職員が定期的に面会し、できるだけ病院関係者と情報交換を行っています。また退院後の相談もご家族とともに行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族の意向やご本人の意思等を確認しています。それぞれの状況に応じ、ご家族、主治医、当事業所職員で、お互いができる事や希望する事を調整しながら、チームで支援に取り組んでいます。	重度化や終末期に対する取り組みを進める際には、それぞれの家族の思いや事情に十分配慮しながら、個別に進めていくことを基本としており、「ターミナルケア」「緩和ケア」の研修も行われている。また、今後は「書面による家族同意」について、検討したいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、活用しています。会議の中で、緊急対応の勉強しています。また、救命救急の講習会を予定しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防署の協力を得て、避難訓練を行っています。地域の方々も多く働いていることから、災害発生時には近くに住んでいる職員に早く連絡できるような連絡体制を整えています。	運営推進会議メンバーにも見学してもらい、利用者と一緒に夜間想定訓練を実施しており、日中想定訓練も予定されている。また、自動通報装置やAEDに関する取り組みも行われている。	「緊急連絡網」に運営推進会議メンバーも入ってもらうなど、地域との連携や協力が更に多くの方から得られる体制づくりに取り組まれることも期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライドに配慮した対応を心掛けています。記録や個人情報の取り扱いについても理解して、援助にあたるようにしています。	本人の「プライド」や「誇り」を傷つけないように、「否定しないこと」「声かけの仕方を変えること」など、一人ひとりの個性を尊重した対応・言葉遣いで職員は利用者に接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や残存能力を発揮できるように援助するようにしています。また、自分で決定できるような関わりも大切にしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望をお聞きし、その日の体調と相談しながら対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪を行っています。また、ご本人と衣類等を買に出かけたりしています。美容師のボランティア方からマニキュアや化粧などをしていただいて、おしゃれを楽しんでいます。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた献立作りにも努め、食事作り(芋煮など)を入所者の方々と一緒に楽しんで行っています。積極的に後片付けも手伝っていただいております。	法人の管理栄養士が立てた献立をもとに、職員と利用者が一緒に楽しみながら、食事を作って食べている。また、誕生日や紅葉狩りでの外食、お花見、しそ巻きや笹巻作り、いも煮、餅つき等、食事をより楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士と連携を図り、ご本人の好き嫌いを把握して対応しています食事や水分の確保に努めています。また、個々でセレクトできる機会を設け、興味や嗜好を尊重しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が見守りながら、ご本人から行っていただいています。出来ない方については介助や確認を行っています。自分で出来ない方については定期的に専門医による口腔チェックをしていただいています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄記録を作成し、サイクルを把握して、誘導を行っています。また、ご本人の習慣等にも配慮して、排泄の自立支援を目指しています。	利用者全体の排泄状況が一目でわかる表、必要に応じて記録する「個人の詳細版」、声がけの工夫などにより、利用者一人ひとりに合わせた排泄自立の支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を多く含む料理を工夫しています。また、リハビリや天候に合わせての散歩を通し、個人の運動量を増やす事で予防に繋がっています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望や体調に合わせて入浴を行っていますが、夜間入浴は実施していません。	檜を使用した造りや「洗い場」にも床暖房を取り入れたりしており、「介護度が高い方でも湯船につかってほしい」と考え、週3回は入浴を楽しんでもらえるようにしている。また、入浴拒否がある方の誘導方法も工夫されている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムに合わせて、ゆっくり過ごしていただけるように声かけし、ソファや畳等を利用して休息の時間を確保しています。夜は就寝時間もご本人の生活時間に合わせています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や調剤薬局と連携し、服薬の目的や病状を確認しています。必要に応じて、主治医に症状を報告しています。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者が自分らしさを表現でき、存在が確認できるような場面の提供につとめています。(食事へ関心、片付け、掃除、編み物、趣味等々)			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望と体調に合わせ、散歩等の外出を行っています。また、花見やドライブ等季節毎の行事で外出する機会を設けています。	パン・カップラーメン・お菓子などの買い物、近隣の公園への散歩、地元の体育館での軽いリハビリ(平行棒)、床屋や美容院の利用、産地直売所での買い物、赤川河川敷での花見など、外出の機会を多く設けるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、少しでも本人に財布やバックを準備していただいています。買物、通院等の支払いも家族や本人の希望に沿って行っています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、その都度、電話や手紙でのやり取りを行っております。ご家族、ご親戚等からもご本人宛にお電話をくださり話されています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を体感できるよう、事業所内に季節等の花や節句の飾り物を行い、居心地の良い空間作りに努めています。	クリスマスの飾り付け、行事の写真、観葉植物、ソファなどがあり、明るい雰囲気のリビングとなっている。また、床暖房施工、ウイルス対策にも役立つ加湿器や光触媒加工が施された内壁など、利用者が健康で安全に暮らせることに配慮した共用空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人のご希望に合わせ、一人になれる空間作りや気の合う仲間と過ごせる時間を提供しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境を作ることで落ち着いた生活を送れるように支援しています。	心身の状態に合わせて、「何を持ち込んでもらうことがよいか」や「室内のレイアウト」が個別に検討されており、テレビ、タンス、時計、日用品、装飾品などが持ち込まれた居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境により、個々が思い思いに安全な移動出来ています。また、残存能力を活かし、適度な声掛けや介助により自立した生活へと結びついています。			